

自然観察会報告
清沢のホタルと自然観察会
佐々木彰央



実物標本を見ながらホタルの説明を聞く参加者



現地で暗くなるのを待つ参加者

2014年6月8日、静岡市藁科川の上流の清沢塾でホタルの観察会を実施しました。当日は気温湿度ともに高く、蒸し暑い1日で、空は雲に覆われていました。ホタルの観察会は前年にも行っており、今回で2回目の参加者が何人かありました。

ホタルは日没後から光りはじめるため、それまでの時間を利用して県内でみられるホタルの種類とオス・メスの見分け方について標本と資料を使いながら参加者に説明をしました。

次いで、棚田周辺の生き物の観察を行いました。棚田の石垣は、モリアオガエルの産卵場になっていて、あちらこちらに泡状の卵塊が付着しているのが見られます。モリアオガエルは樹上で行動をするため、通常は木の枝や葉に卵を産み付けますが、ここの棚田の石垣は高いので、産卵に適しているのかもしれませんが。

その卵塊下にはたくさんのアカハライモリがあり、モリアオガエルの卵を食べに集まってきた様子でした。アカハライモリをよく観察してみると背面が赤い個体が多いことに気が付きます。このような色彩は静岡県中部では比較的好く見られるタイプです。

このような生き物を観察していると、あっという間に時間が経ち、辺りは山並がうっすらと見える程度に暗くなりました。

午後7時30分ごろ、ポツリポツリとホタルが光りはじめ、参加者たちは次々に歓声をあげ、ホタルの美しい舞に見とれているようでした。このホタルはゲンジボタルという種類で、体長は8～18mmくらいの比較的大きなホタルです。オスのゲンジボタルはメスを探してゆっくりと飛び回りながら明滅します。メスはオスに気が付いてもらえるように長く光り、オスが近づくと光るのをやめ、オスのアピールを判定します。メスは、オスを受け入れる場合は光って知らせますが、ダメであれば光りません。私たちが観察していた時にみられたオスは全て失敗に終わっていたようで、清沢塾のメスボタルはなかなか厳しい性格の持ち主なのかもしれません。このようなオスとメスとのやり取りがみられる期間は短く、1～2週間程度で終わってしまいます。成虫のゲンジボタルは水だけを飲み繁殖をして生涯を終わらせます。そして、苔の上でうっすらと光る卵だけを残します。

清沢塾にはゲンジボタルの他にヘイケボタルとクロマドボタルがあり、ヘイケボタルは7～9月にかけてみることが出来ます。クロマドボタルは陸生種で幼虫が光っているところを観察できます。幼虫がみられる時期はゲンジボタルが舞う季節と同じ6月初旬の林道脇などです。